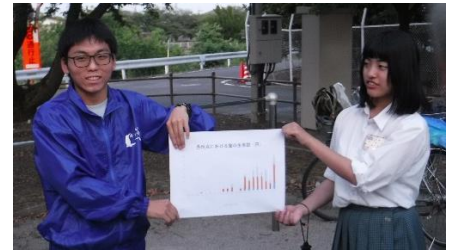


今年で 4 年目の「ホタル観賞会」を、町内の間長島公園から糸貫川の下流域 500 m 程の河岸道路を通行止めにして実施しました。今年はホタルの発生も多く、450 人ほどの参観者がありました。ホタル通信の紹介にもあるように、岐阜農林高校生徒・大野雄太さんの「ホタル調査」をもとに、発生数の多い河岸を見学のみなさんに紹介しました。

①ホタル鑑賞会であいさつをする坂下文雄会長

②ホタル調査を発表する大野雄太さん



感想として、

「こんなに多くのホタルを自然の中で見られてよかった。」

「カワニナなどの生態調査や月一回の糸貫川美化活動を続けてこられた結果だと思います。」

「何匹も捕まえた、来年もまた見に来たい。」など、ホタルとの出会いを楽しむ声を聞くことが出来ました。

③ホタル観賞会の当日、間長島公園で打ち合わせを行い、交通整理や巡視、案内等の役割を確認しました。また、TV局の取材を受けました。



④ホタル祭りの交通整理スタッフです。



⑤岐阜農林高校のみなさんも巡回や案内をしてくれました。



ほたる看板について

このホタル観賞会を行う糸貫川に沿って間長島（まなかしま）公園があります。この公園に今年の4月、ゆうすいの会による「ホタル看板」（ホタルの一生の紹介）が完成しました。岐阜農林高校の生徒さん（環境科学科の東山奈由さん、津田真佑さん）のデザインによるもので、写真はその時の除幕式の様子です。



北方町・戸部町長さんも駆けつけてくださいました。岐阜農林高校生も参加しました。

『ほたる通信』に「ホタル観賞会」が掲載されました！

ゆうすいの会の活動を折り折り紹介して下さる「中日岐阜ホームニュース」『ほたる通信』。その6月号に、北方町を流れる糸貫川で行った「ゆうすいの会」主催の「ホタル観賞会」が紹介されました。ホタル通信は北方町全戸に配布されますので、ゆうすいの会の存在とその活動が徐々に町民のみなさまの中に広まっていくと思います。右は『ほたる通信』の表紙です。以下、掲載記事をそのまま紹介します。



優雅な光の舞、楽しむ

新高橋の上でホタルを楽しむ来場者ら



大野君からホタル発生状況を聞く、ゆうすいの会のメンバー

初夏の風物詩ホタルを楽しむ「ホタル観賞会」が6月2日夜、北方町平成の間長島公園周辺の新貫川沿いであり、幻想的な淡い光が訪れた見物客を魅了した。

大野君は「新高橋の下流付近に多く見られた。見物エリアがもっと広がってほしい」と期待した。20時ごろになると、川の茂みのあちこちでホタルが明滅。「今、光ったよ」「わあ〜きれいやなあ」と感嘆の声が上がった。近くに住む西村良久さんは「昨年より数が増えている、間近で見れてよかった」と喜んでた。

北方 ゆうすいの会
ホタルの観賞会 糸貫川で

8月の活動予定 「いけいけ糸貫川」(8月26日)で川下り・生態調査・川遊び(写真は平成29年度)を実施

